

令和4年度

事業計画書

社会福祉法人寿楽園

経営、運営に係る基本的な考え方

昨年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言期間が長期に続き、利用者や職員のワクチン接種をはじめ感染症拡大防止対策を強化しました。そして感染症及び災害時の BCP 策定を行い、緊急事態時におけるリスクマネジメント体制を見直しました。一方で、家族面会や大型行事の中止等、家族や地域との関わりが制限されたことで、法人が今まで培ってきた「開かれた施設づくり」が停滞しております。

そのため、今年度より、感染対策を継続しながら利用者や家族にとって、安心かつ満足度の高いサービスの充実を目指します。サービス担当者会議や面会等の方法を見直し、家族や地域と交流できる機会や提供体制を整えます。そして、レクレーションやリハビリテーション体制も見直し、人との関わりの中で生活のメリハリを持っていただき利用者の QOL（生活の質）向上につなげます。また導入を進めている新しい介護情報管理システムや見守り機器等の運用標準化を行うことで、介護サービスの生産性の向上と、効率的なサービス提供に継続して取り組みます。内部管理体制においては、引き続き、介護事故や感染症や災害等に対するリスクマネジメントの教育や点検機能を強化し、サービス品質の底上げに努めます。

次に、法人の長期施設整備計画における横浜第二期施設整備計画においては、昨今の大雨等による土砂災害の懸念が高まり、特別養護老人ホーム笹の風の敷地内にある土砂災害特別警戒区域の解除に向け防災工事を行います。同時に「特別養護老人ホーム新設」に向け、プロジェクトチームを編成し、資金計画や事業計画の立案・準備を本格稼働します。そして、佐賀再生事業の基山事業所大規模修繕工事は、2年目を迎え、より一層利用者の生活環境を改善し、選ばれる施設づくりに邁進します。

また、時代を見据えた「魅力的な職場づくり」人材確保・定着支援戦略として、給与体系の見直しに取り組みます。責務・権限、仕事の出来高（能力）に見合う適正な待遇を推進し、横浜第2期施設整備計画に向け管理監督職の育成を強化します。そして、職員が仕事と生活のバランスを取れる多様な働き方を推進します。さらに、2015年国連サミットで採択されたSDGs（2030年までの持続可能な世界を実現するための国際目標）の17のゴールの中から、法人の事業で関連し注力すべき項目の施策を掲げ、社会的課題の解決に取り組み、持続可能な世界を実現するため、SDGs 目標達成に貢献します。